

## 「モビリティの再編による都市空間の復権」

～総合交通戦略によるまちなかの賑わい創出～

国土交通省 都市・地域整備局 街路交通施設課  
街路事業調整官 神田昌幸



地域活性化や活力ある都市活動などのために「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」ができました。これによって、路面電車の LRT<sup>※</sup>化、BRT<sup>※</sup>の整備など、地域住民や観光客のための公共交通サービスの改善が図られることになった訳です。

交通に関しては、大きな変化というか、転換期を迎えており、今までできなかったものが一気に進んでいくことが考えられ、まさに前向きで良い方向へ向かっていると言えます。

一つ挙げられるのが、移動手段です。移動というと、自動車に乗ると勘違いされるが、基本は「歩く」ということです。

まちなかの賑わいというのは、どれだけ街に人があふれるかということです。商店街にいくら自動車が入っていても、自動車が買物をしてくれる訳ではなく、人であるので、いかに人が自動車を降りて店に来るのが大事になってきます。

金沢市の例ですが、中心部では人が多く歩いていて、賑わいがあり、大変、素晴らしい状態となっています。ここでは、一般車を排除して、バス等の公共交通機関を優先させていることで、マイカーを使いにくくしています。そのため、人の賑わいが創出されています。自宅から、まずマイカーに乗ってしまうと CO<sub>2</sub>を排出するようになり、そういう環境の面でも良い傾向となっています。

では、どのように考えていけば良いのかということであるが、まずは徒歩、それから自転車、路線バスやコミュニティバス、鉄道、タクシーと考えていき、マイカーについては適度に使うようなまちづくりが重要となってきます。

都市の実情に合った、いろんな施策を組み合わせながら展開することで、その都市に相応しい、賑やかな空間を創出することにつながることになります。

こうした例はヨーロッパで多く見られ、活性化を取り戻しています。

イギリスのノッティンガムでは、歩行者優先で人を中心とした気持ちの良い空間をつくっています。これは自動車が入りにくい環境を作っているからで、自動車だけでなく、自転車についても排除しています。日本では間違った認識の方が多いが、自転車は、あくまで車両であり、その認識、マナーが徹底されています。



フランスのパリでは、自転車は、バスと同じ道路を走れるように専用道路や専用の信号があり、上り下りのレーンを分けるということが基本となっています。パリは自転車において先進的で、ヴェリブと呼ばれるレンタサイクルが重要な交通手段の一つとなっています。

レンタサイクルは、IC カードを利用して無人で貸し借りできるようになっています。また、駐輪

場には故障を直すショップ等もあり、まさしく自転車によるフランス革命となっています。

つなぎの施設である駐車場に関してもヨーロッパの各都市は先進的で、空き状況がきちんと表示されていて、うろつきや長時間の待機を回避できるようになっています。表示板のデザインについてもレンガ造りや石造り、ガラス造りなど周辺環境との調和を考えているものもあり、色んな意味で都市交通の拠点づくりに参考にできるのではないかと考えています。

本日、後ほど、ここ広島市の横川駅前広場整備の話が出るということで、交通結節点についても触れておきます。

交通結節点には、どのような機能があるのかというと、駐車・駐輪スペース、バス等の公共交通スペースなど交通モードをつなぐ機能のほか、まちの顔になるという拠点機能、人が集い、語る交遊機能、緑などの環境空間も重要な要素となっています。また、場合によってはモニュメントや情報提供の場、防災活動としての空間など、多様な機能が求められています。

交通結節点整備の事例を何例か紹介すると、豊橋市では、路面電車走行空間改築事業という補助メニューの第1号となったが、道路上で止まっていた路面電車を広場内に延伸して、利用者が信号を渡ることなく、豊橋駅への連絡が可能となっています。

北九州市の小倉駅では、駅ビルをつくり、モノレールを導入するという、100万人都市に相応しい新しい顔となりました。

鹿児島市では、路面電車の軌道敷きを芝生化し、水捌けも良く、保水性があるなどの機能のほか、冬でも青々として枯れないなど視覚的な面でも優れています。市民に非常に好評であり、普通なら7割の支持を集める大成功と言われるところ、95%が賛成という驚くべき結果が出ています。

金沢市や名古屋市では、モニュメントなど限られた空間を上手に活用しています。

そして、ここ広島市では、横川駅において、国道上にあった路面電車を広場に導入して、ボトルネック交差点を解消し、さらに都心に向けた新線も運行するなど、交通結節機能が向上しています。



最後に、歩行者、自転車やバス、路面電車、鉄道などの公共交通、また、つなぎの施設としての駐車、駐輪施設を向上させ、より一層、まちの賑わいを取り戻すため、ひと中心のまちにしていくということを、それぞれの地域で知恵を絞って

やっていただければありがたいと考えているところです。この知恵を絞ることが総合交通戦略を考えるということだと考えているので、よろしく願いするところです。

※LRT: Light Rail Transit 低床・バリアフリー設計の新車の投入、屋根付きの快適な停留所、高速・定時性の確保等を組み合わせた機能を備えた次世代型路面電車システム

BRT: Bus Rapid Transit 輸送力の大きなノンステップバスの投入、バス専用レーン、公共車両優先システム等を組み合わせた高次の機能を備えたバスシステム

平成20年11月20日(木) リーガロイヤルホテル広島にて